

十一月の御教え

不信心者ほど神はかわいい。信心しておかげを受けてくれよ。

……「天地は語る」第三十四条……

解説

この御教えは、私達人間に対する“神様の御思い”を現わされたものであります。

勿論、神様は「信心の篤い者」を喜ばしく思われるのは言うまでもないことではありませんが「不信心者」即ちまったく信心を知らない人、又、信心はしているものの、自分勝手な信心で済ましている人たちを「悪い」とか「駄目だ」とか言うのでなく、かえって「可哀そう！」と思し召されるのであります。

そうして、早く天地の親神様の御心を知り、一心に信心して「御蔭を受けて助かってくれよ！」との厚い御思いがほとばしったお言葉であります。

初代大先生も「信心のない人は気の毒じゃのう！」と仰せられ、又、先代親先生も悲惨な報道に触れる度に「信心があったらなあ！」と嘆かれていた事が思い出されます。

今月の二十四日は初代大先生の六十年の御日柄であります。

共々に御蔭を蒙らせて頂きましょう。